

## 2020年6月7日聖餐式説教

3月8日に礼拝を休止して以来約3か月が経過し、本日6月7日、礼拝を再開することが出来ました。新型コロナウイルスの危機が去ったわけではないことから、教会の礼拝に危険がないよう、また皆様が不安を持たれることのないよう、短縮版の聖餐式文を用いながらの礼拝再開になります。また礼拝出席に際して数多くのご協力を皆様にもお願いしております。どうぞよろしく願いいたします。

結果的に礼拝休止は3か月、13の日曜日の公禱を休止することになりました。年間の日曜日は52か53ですので、ちょうど4分の1公禱を休止したことになります。教会の礼拝を年間の4分の1お休みするなど、戦時中もそのようなことはありませんでしたので、これは当教会始まって以来のことではなかったでしょうか。その意味ではまず、この日を迎えられたことを神様に感謝したいと存じます。

しかしながら、6月2日に東京アラートが発令されるなど、私たちを取り巻く状況には厳しいものがあります。皆様くれぐれも健康に気をつけていただき、教会の礼拝を続けることができますよう、祈り励みたいと思います。

さて本日の礼拝はイースター礼拝として行っております。イエス様は十字架に架かる前、ご自身が十字架上の死を遂げ、3日目に復活すると予告しておられました。弟子たちはそれが何のことか理解していなかった様子が描かれています。日曜日の朝、彼らはイエス様の復活の約束は頭になく、ユダヤ教指導者たちが自分たちの居場所を突き止め、自分たちも同じように十字架にかけられるのではないかと恐れ、息をひそめるように隠れていたのです。いつ終わるかわからない不安の中で、ただただ隠れていることしかできなかった弟子たちの姿が聖書に描かれていますけれども、それは今回、私たちがいつ終わるかわからない礼拝休止と向き合ったのと、全く同じではないとしても共通する部分があったのではないかと思います。いつ終わるかわからない中で、喜びと希望の再来を待ち望みつつ、忍耐をもって時を待つのを私たちは今回学んだのではないのでしょうか。礼拝休止は当初3月いっぱいでした。しかし3月が終わりに近づくとつれて感染者が増加し、緊急事態宣言を出してもらいたいと各方面から要請される事態であったことから、3月末までの休止を当面休止に変更いたしました。日曜学校も当初は3月いっぱいの休止でしたが、ゴールデンウイーク

ク明けまで休止に延長、そして5月いっぱい休止を再延長し、本日、一緒に礼拝を再開することになりました。礼拝休止は結果的に3か月でしたけれども、それが3か月と分かっていた人はおらず、また今後もどうなっていくのかわからない状況が続きます。

弟子たちは、復活のイエス様に出会い喜びました。そして復活のイエス様の証人となりました。彼らの心にはもはや失望と悲しみはなく、イエス様と一緒にいた時の喜びと希望が、再びわきあがっていたのでした。彼らは心身共に、復活のイエス様によって起き上がらされたのです。

この後に復活の体験は次々と多くの人々に訪れます。イエス様と3年間の宣教生涯を共にした12弟子に続き、道すがら十字架の出来事を話ながら歩いていた弟子たちにもイエス様は復活の姿を現されました。イエス様の語りかけは様々でしたけれども、皆お墓の中にいるような暗い、沈み切った心から解放されて、喜びにあふれ、私は復活の主に出会ったのだと証しするものになっていったのです。復活は世にも不思議な奇跡物語なのではなく、罪のうちにある私達が、イエス様によって開放され、強められ、喜びにあふれて、新しい出発をするということに他なりません。

ペトロはこの後、イエス様が十字架につけられたエルサレムから故郷のガリラヤに行き、漁師に戻っていました。しかしその日は何の収穫もありませんでした。そこへイエス様が現われて場所を教えると、おびただしい魚が取れました。ペトロは思い出しました。初めてイエス様に出会った時も全く同じだったと、一晩中漁をしても何の獲物もなかったところにイエス様が場所を教えてください、大漁になったのでした。あなたを、人間を取る漁師にしてあげようというイエス様の言葉に従って、ペトロはすべてを捨ててイエス様に従っていたのでした。ペトロははっきりとそのことを思い出し、あの時の勇気が、力が、感激がよみがえってきたのでした。こうしてペトロは自分自身もイエス様の復活に与ったのでした。

復活に与るとは、私達自身がイエス様によって罪のうちから解放され、強められていくことです。私達にも弟子たちと同じ喜びが与えられ、強められる確信をイエス様が与えてくださいました。これからの教会の歩みがどのようになっていくのか、主の導きを信じつつ、私たちの信仰をしっかりとって、これからの日々を復活のイエス様と共に歩んでまいりましょう。